



ぐずついたお天気が続きます。年間を通じて一番健康を害する危険な時であり、又伝染病の内特に赤痢、疫病が多く発生する季節でありますので、お互に健康新規に注意していただきたいと存じます。以下館山保健所予防課長の長井和行先生に、赤痢についてのお話を聞いて頂きました。

## これから多い赤痢

### 環境衛生、飲食に注意

赤痢は子供の病気と言つても良い位で、殊に四歳前後の幼児の罹患率が高く、不幸にして生命を奪はれるものこの年頃が最も多くなつております。七日位の潜伏期を経て全身倦怠、頭重、心悸亢進等と一緒に三十九度から四十度もの高い熱が出ます。やがて恶心、嘔吐が現れ、小児の場合意識がなくなりうわごとを言つようになり、下痢は特にひどく、しぶり腹痛となり粘液、膿、血液の混じた便が出来ます。特に小児の場合は、いわゆる疫病といふ型で現れます。病は元来赤痢と別なるものであります。これらはいとも元々赤痢と別なるものであります。それも健全な楽しい遊びなのであります。その反面毎年のように数多くの事故を起しています。昨年当署管内の水のせいで者は、貯水池三名、海岸二名、川一名計六名でこの年令別をみると二才が一才が一名、六才が三名、七才が一名となつており、この外溺死すん前に幸に救助されたもの

が最も注意をしてやらなければならぬのに、魚つり、ボート乗り、潮干狩などの水遊びと花火があります。これらはいとも元々赤痢と別なるものであります。そのため、毎年のように数多くの事故を起しています。

### 危険な子供の水遊びと

火薬いじり（館山警察署）

火薬いじり（館山警察署）